上毛新聞　THE JOMO　（第3種郵便物認可）

# 霜道の足跡バッチリ

# 採取に新（オーブラート）方式

## 全国で初　さすが県警鑑識さん

事件現場で残された足跡の完全な採取は、形・割り出しの重要な決め手。しかし本県など寒冷地方の冬季間は、雪や霜などの条件が悪く、足跡の採取は非常に困難で、関係者による科学的研究、工夫が続けられていたが、つい先日、県警本部鑑識課が、全国で初めて「オブラート」を使った採取方法に成功した。この研究報告は、五月に開かれる全国鑑識会議で発表される予定。また、この研究の足跡に新しい区間を示すものとなった。

これまで霜足痕は、従来の石こう、墨のような粉状染料で付けてしまうを流し込み型を取る方法では、一つとして満足な結果出来ない。また採取に時間がかかるなどの難点があった。

【オブラートを使った足跡採取と従来のとう足跡】

取出来たとしても不鮮明で精度の低いものが多かった。

研究の結果、完全に近い採取が可能となった。

県警鑑識課（田村友雄課長）は本年度、過去の事件を全面的に見直し、オブラートを使って足跡用の中でも研究を進めていた。

大分県警、過去の事件を全面的に見直し、オブラートを使って本県の鑑識は大きな功績をあげているが、よりよい本部鑑識機の向上、鑑識員をリーダーとする田原一高高警長、松本育夫巡査ら二人の研究によって、この霜足跡の完全採取方法が実現した。

霜足跡の場合、印象面（足あとの形）を直接流し込むとうろうろ、印象面に影響を与えるよう、印象面に影響を与えるよう、印象面に影響を与える考案、採取装置中、の考案なども使用しても鮮明な足跡のたいオブラートを採取に使ったもの、これをもとに、実際の現場で使用したところ、オブラートの収縮、膨張する性質による足跡の細かい変形を考慮しなければならない。

県警本部では、今回の研究成果を、全国の鑑識関係者に公表する。

# 室町時代の人骨と古銭見つかる

## 葬法に手がかり

### 仏教思想の普及示す？

太田の屋敷内B遺跡

【見つかった骨の断片】

太田市屋敷の区画整理事業（新町B遺跡）の発掘調査が同市教委によって進められているが、九日、同遺跡から中世室町時代のものとみられる骨の一部と古銭一枚が見つかった。人骨と古銭が見つかった遺跡は鎌倉・室町時代に造成されたものとみられ、このことから当時、死者を埋葬する際に古銭を入れて、この遺跡は仏教思想の普及を示すものとみられる。

今回、見つかった骨は、一部が焼けており、これは火葬を行ったものとみられる。

同遺跡からは一緒に古銭が発掘されたが、この古銭は、一枚だけ見つかった